

花沢アイクリニック通信

第29号
H25年3月

おうはんぶ 「黄斑部」のおはなし 3

～黄斑疾患の治療～

こんにちは。院長の梅津由子です。

3月になり春の兆しがところどころに感じられる今日この頃です。待ち遠しい春の訪れではありますが、花粉症の方にとってはうっとうしい憂鬱な時期でもあります。特に今年は少なかった昨年の数倍の花粉の飛散が予想されていて（特に置賜地方は多いらしい）、去年若い症状で済んだ方も今年は要注意です。山形県では3月上旬ごろから飛散が始まる予想です。そろそろ点眼・内服などの初期治療…まだ症状が出ないうちから投薬を開始すること…をはじめ、つらい季節を乗り切りましょう。

さて、数回にわたって黄斑部の構造・疾患についてお話してまいりましたが、最後に黄斑疾患の治療について簡単に述べておきたいと思います。黄斑部は視力に直接影響する部分だけに、以前はなかなか積極的なアプローチができず黄斑円孔や黄斑変性症などは経過をみていくしかない時期もありました。最近になって、網膜硝子体手術や直接眼内に特別な薬品を注射する治療（硝子体注射）などが治療の主流となってきました。さらに去年ノベル賞を受賞した山中教授のiPS細胞の臨床応用が眼から始めることになり、注目が集まっています。

今回、iPS細胞の臨床応用が試されるのは、加齢黄斑変性です。黄斑変性では、網膜に酸素や栄養を橋渡しする色素上皮という細胞の層が壊れてしまいますので、iPS細胞から分化させた網膜色素上皮細胞を並べてシート状にしたものを、眼内の傷んだ網膜組織を取り去って埋め込みます。移植した細胞が異常増殖しないか、癌にならないか、きちんと狙った場所に入っているかどうかなど、眼は外から観察が可能なので、安全性のチェックに向いているのです。iPS細胞による治療に関して、「治療したら視力が良くなる」と思っている人が多いですが、まだ効果は不明です。まず、安全性の確認のために試験をしている段階です。iPS治療が安全に行えたとしても、それが機能回復につながるかどうかはまだ分かりませんが、是非是非いい結果が出てほしいものです。



ホームページ <http://www.hanazawa-eye.com>

〒992-0022 米沢市花沢町2695-

1

土曜日は昼休みなく、8:30～15:00まで

初めてコンタクトをおつくりする方の受付
は

受付時間	月	火	水	木	金	土
8:30～1	☺	☺	☺	☺	☺	
2:00～	☺	☺		3:00 6:30	☺	☺

目玉いきいきライフ

目玉いきいきライフのコーナーでは、目の健康に関する情報や、耳より情報（眼科だけどっ）をお届けします。



さかさまつげ

まつげは本来、まぶたの縁から眼球とは反対側へカールし、眼球にあたらないように生えています。さかさまつげとは、まつげが目の表面に接触している病気のことです。ひどくなると角膜に傷ができ、目にゴロゴロするような異物感を感じたり、涙目になったり、目が痛む場合があります。さかさまつげは、大きく3つに分かれます。



睫毛乱生(しょうもうらんせい)

一部のまつげの生え方が乱れて内側へ向いている状態です。

眼瞼内反(がんけんないはん)

おもに高齢者の下まぶたのさかさまつげです。これは加齢によりまぶたの皮膚がゆるみ、まぶた自体が内側に巻き込むことで、まつげが常に目の表面に接触している状態です。

睫毛内反(しょうもうないはん)

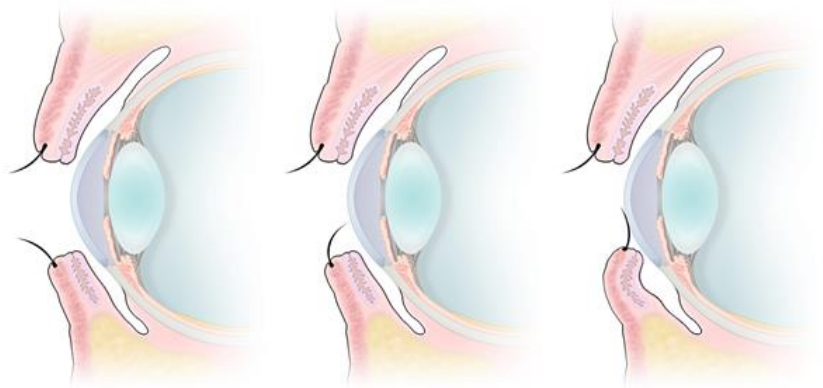
おもに小児のさかさまつげです。まぶた自体の向きは正常ですが、まつげのみ内側に向いている状態です。

さかさまつげは、内側に向いているまつげを抜くことで、症状が改善します。また、必要があれば、手術の対象となることもあります。自分で逆まつげを抜くと、角膜を傷つけたり、感染などの恐れもあるため、まずは眼科を受診しましょう。

〔正しいまつげの生え方(イメージ)〕

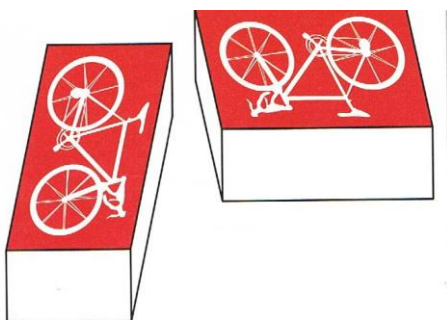
〔睫毛乱生(イメージ)〕

〔眼瞼内反(イメージ)〕



バッチリがんばれ、目玉いきいきライフ！

どっちが大きい？



シェパード錯視

左の箱は縦に長く、右の箱は幅が広いように見えますが、赤く塗られた面は、どちらも



編集後記

最近、キュリアレーザーでお顔のリフトアップをした方から、「肌の調子が良くなった」と喜ばれ、うれしくなりました。継続することで、美白効果もあるので、興味のある方はぜひ声をかけてください。また、くっきりコンタクトでは、目のサプリメントをみつつかけています。抗酸化作用が高いものなので、アンチエイジングも期待できます。私もがんばって飲み続けよう！

りっこ・ビビ・ブッチ